## 令和7年度第2回 旭川市中園廃棄物最終処分場監視委員会 会議録

日 時	令和7年9月2日(火) 14:30 ~ 15:05			
場所	(仮称) 旭川市リサイクルセンター 研修室			
出 席 者	<ul> <li>○ 旭川市中園廃棄物最終処分場監視委員会 委員14人(定数15人)</li> <li>・松藤 敏彦 ・吉田 英樹 ・小寺 史浩 ・山口 篤 ・荒川 忠基 ・荒川 恵美子 ・荒川 信基 ・北邑 英治 ・大西 敏秀 ・橋本祐一</li> </ul>			
	・有木祥次 ・桑島 徳見 ・小久保 志津子 ・新田 晃  ○ 事務局7人 ・太田環境部長 ・尾藤廃棄物処理課長 ・齋藤旭川市廃棄物処分場所長 ・藤同主査 ・増田同主査 ・工藤同主任 ・倉田同係員			
V 88 -1F-V 88	V/ BB			
公開・非公開	公開			
傍聴者数 報道機関	なし なし			
調査検討事項及び資料等	1 中園廃棄物最終処分場の現況について (資料なし) 2 中園廃棄物最終処分場の廃止について (資料1) 3 監視機関委員の視察について (資料2) 4 その他			

項目	担当	発 言 要 旨
※勉強会	会 長	※ 会議に先立って、会長による勉強会「リサイクルはいつも良いのか」
		を実施した。(資料は「勉強会資料」のとおり。)
開会	司 会	ただ今から、令和7年度第2回 旭川市中園廃棄物最終処分場監視委員
	(事務局)	会会議を開催する。
(日程説明)		本日の調査検討事項は
		1 中園廃棄物最終処分場の現況について
		2 中園廃棄物最終処分場の廃止について
		3 監視機関委員の視察について
		4 その他 となっている。以降は、会長に議事の進行をお願いする。
出席数確認	会長	出席委員は、15人中14人。
		定足数に達しているので議事に入る。
会議録確認	会長	議事の前に前回の会議録について確認する。内容に疑義等あるか。
	委員	(意見等なし。)
10-1	会長	次に進む。
検討事項1	会長	調査検討事項1 中園廃棄物最終処分場の現況 について
中園廃棄物最		事務局から説明願う。
終処分場の現 況について		(動画により現況を視聴)
DEVC DV 1	会 長	質疑等はあるか。
	副会長	水処理施設の管理委託はいつまで継続するのか。
	(監視委員会)	
	事務局	施設を経由しない水路への切替工事を今年度中に施工して、来年度から
		は管理不要とする予定。
	副会長	来年度から、水処理施設の管理委託費はゼロになるということか。
	(監視委員会)	
	事務局	その予定である。
	(委 員)	(ほか、意見等なし)
	会 長	この項目はこれでよろしいか。
	(委 員)	(了承の声)
	会 長	次に進む。
検討事項2	会 長	調査検討事項2 中園廃棄物最終処分場の廃止について、事務局から説
(中園廃止)		明願う。
	事務局	( 資料1-1により 廃止までの経過 を説明 )
	会 長	今後、国への届出等の手続きがあるのか。
	事務局	今回の廃止確認申請で手続きは完了となる。
	会 長	国の統計にはどのように反映されるのか。
	事務局	次回の環境省調査の際に回答する。
	会 長	承知した。補足だが、廃止で全てを終了するわけではない。地域との協
		議により、今後もモニタリングを継続していくこととなる。
		では、資料1-2の説明を願う。
	事務局	( 資料1-2により 下流調整地の管理 について説明 )

に感じる。メーカーに確認してみてはどうか。   表員1   底面は、シートの上に厚さ30cmで砂利が敷き均されているので、問題ないのではないか。  その点はメーカーに確認してもらうこととして、次に進む。  ※【事務局で後日メーカーに確認した内容】 遊水シートの労化の要因は紫外線であることから、水があれば問題ないが、底面のシートの上に砂利が30cmの厚さで敷かれていれば、紫外線は適さないので、水が無くても問題ないとのこと。  調査検討事項3   監視機関委員の根察について、事務局から説明願う。 (資料2 1~2ページで、視察の概要・行程等について説明する。 (資料2 3~4ページで、視察先の最終処分場と生ごみ堆配化施設の処理行程等ついて説明)  会長   予備知識として、一般的な高速堆配化の仕組みについて説明する。 1) 高速堆配化は、下から空気を供給して分解速度を高める。定期的にごみを切り返す。 2 生ごみの分解による熱発生のため、60~70℃となる。温度低下は分解が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。 3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。 4) 高速性配化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す事積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆配を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(現物検出機でどのようなものが除去されているか)。 31 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。 4 堆配中に異物はないか。(ブラ弊はあるい機で除去されているか)。 9 製品堆配の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。 (積極的な利用者はいるか)。		副会長 (監視委員会)	遮水シートの表面は遮光処理されているとのことだが、一般的に高密度 ポリエチレンは紫外線で劣化が進む。特にこれまで水底だった部分が急に 露出すると、夏冬の寒暖差や日射の紫外線等で劣化が進む懸念があるよう
ないのではないか。 会長 その点はメーカーに確認してもらうこととして、次に進む。 ※【事務局で後日メーカーに確認して内容】 遊水シートの劣化の嬰因は紫外線であることから、水があれば問題ないが、底面のシートの上に砂利が30cmの厚さで敷かれていれば、紫外線は適さないので、水が無くても問題ないとのこと。 検討事項3 監視機関委員の視察について、事務局から説明順う。 事務局 (資料2 1~2ページで、視察先の最終処分場と生ごみ堆配化施設の処理行程等ついて説明) 会長 「資料2 3~4ページで、視察先の最終処分場と生ごみ堆配化施設の処理行程等ついて説明) 会長 「海に難化化は、下から空気を供給して分解速度を高める。定期的にごみを切り返す。 2) 生ごみの分解による熱発生のため、60~70℃となる。温度低下は分解が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。 3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。 4) 高速堆配化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆配を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。4) 堆配中に異物はないか。(ブラ等はふるい機で除去されているか)。 9 黒品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 4 生のよりに利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			
※【事務局で後日メーカーに確認した内容】 遊水シートの劣化の要因は紫外線であることから、水があれば問題ないが、底面のシートの上に砂利が30cmの厚さで敷かれていれば、紫外線は通さないので、水が無くても問題ないとのこと。 検討事項3 会 長 調査検討事項3 監視機関委員の視察について、事務局から説明願う。(資料2 1~2ページで、視察の概要・行程等について説明) 会 長 予備知識として、一般的な高速堆肥化の仕組みについて、説明する。 1) 高速堆肥化は、下から空気を供給して分解速度を高める。定期的にごみを切り返す。 2) 生ごみの分解による熱発生のため、60~70℃となる。温度低下は分解が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。 3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。 4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。4) 堆肥中に異物はないか。(ブラ等はふるい機で除去されているか)。 9) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。6) 生分解性ブラスチックの殺は分解しているか。7) 製品堆肥にどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。		委員1	底面は、シートの上に厚さ30cmで砂利が敷き均されているので、問題ないのではないか。
遮水シートの劣化の要因は紫外線であることから、水があれば問題ないが、底面のシートの上に砂利が30cmの厚さで敷かれていれば、紫外線は通さないので、水が無くても問題ないとのこと。  横対事項3 会長 調査検討事項3 監視機関委員の視察について、事務局から説明願う。 (資料2 1~2ページで、視察の概要・行程等について説明) 会長 (資料2 3~4ページで、視察先の最終処分場と生ごみ堆肥化施設の処理行程等ついて説明) 会長 「備知識として、一般的な高速堆肥化の仕組みについて説明する。 1) 高速堆肥化は、下から空気を供給して分解速度を高める。定期的にごみを切り返す。 2) 生ごみの分解による熱発生のため、60~70℃となる。温度低下は分解が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。 3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。 4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。4) 堆肥中に異物はないか。(ブラ等はよるい機で洗まされているか)。 5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 4、生分解性プラスチックの袋は分解しているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。		会 長	その点はメーカーに確認してもらうこととして、次に進む。
が、底面のシートの上に砂利が30cmの厚さで敷かれていれば、紫外線は通さないので、水が無くても問題ないとのこと。 検討事項3 会 長 調査検討事項3 監視機関委員の視察について、事務局から説明願う。 李務局 (資料2 1~2ページで、視察の概要・行程等について説明) 会 長 (資料2 3~4ページで、視察の概要・行程等について説明) 会 長 子備知識として、一般的な高速堆肥化の仕組みについて説明する。 1) 高速堆肥化は、下から空気を供給して分解速度を高める。定期的にごみを切り返す。 2) 生ごみの分解による熟発生のため、60~70℃となる。温度低下は分解が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。 3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熱成させる。これを二次発酵という。 4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。4) 堆肥中に異物はないか。(ブラ等はふるい機で除去されているか)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆配の割合。4) 堆肥中に異物はないか。(ブラ等はふるい機で除去されているか)。 3) 生の条性プラスチックの袋は分解しているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熱成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			_ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
横討事項3 (委員視察) 会 長 調査検討事項3 監視機関委員の視察について、事務局から説明願う。 事務局 (資料2 1~2ページで、視察の概要・行程等について説明) 会 長 (資料2 3~4ページで、視察の概要・行程等について説明) 会 長 (資料2 3~4ページで、視察先の最終処分場と生ごみ堆肥化施設の処理行程等ついて説明) 会 長 予備知識として、一般的な高速堆肥化の仕組みについて説明する。 1) 高速堆肥化は、下から空気を供給して分解速度を高める。定期的にごみを切り返す。 2) 生ごみの分解による熱発生のため、60~70℃となる。温度低下は分解が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。 3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。 4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合、製品堆肥と戻し堆肥の割合。4) 堆肥中に異物はないか。(ブラ等はよるい機で除去されているか)。 5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			
事務局			
会 長 (資料2 3~4ページで、視察先の最終処分場と生ごみ堆肥化施設の処理行程等ついて説明) 会 長 予備知識として、一般的な高速堆肥化の仕組みについて説明する。 1) 高速堆肥化は、下から空気を供給して分解速度を高める。定期的にごみを切り返す。 2) 生ごみの分解による熱発生のため、60~70℃となる。温度低下は分解が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。 3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。 4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(臭気対策)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。4) 堆肥中に異物はないか。(ブラ等はふるい機で除去されているか)。5) 製品堆肥の保管時間はどうか、(時間の経過で熟成が進行)。6) 生分解性ブラスチックの袋は分解しているか。 7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。	検討事項3	会 長	調査検討事項3 監視機関委員の視察について、事務局から説明願う。
要行程等ついて説明) 会 長  予備知識として、一般的な高速堆肥化の仕組みについて説明する。  1) 高速堆肥化は、下から空気を供給して分解速度を高める。定期的にごみを切り返す。  2) 生ごみの分解による熱発生のため、60~70℃となる。温度低下は分解が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。  3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。  4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。  5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。)  6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。  なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。  1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。  2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。  3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。  4) 堆肥中に異物はないか。(ブラ等はふるい機で除去されているか)。  5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。  6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。  7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。  これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。	(委員視察)	事務局	(資料2 1~2ページで、視察の概要・行程等について説明)
1) 高速堆肥化は、下から空気を供給して分解速度を高める。定期的にごみを切り返す。 2) 生ごみの分解による熱発生のため、60~70℃となる。温度低下は分解が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。 3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。 4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。4) 堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。 7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。		会 長	
2) 生ごみの分解による熱発生のため、60~70℃となる。温度低下は分解が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。 3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。 4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。4) 堆肥中に異物はないか。(ブラ等はふるい機で除去されているか)。 5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。 7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。		会 長	1) 高速堆肥化は、下から空気を供給して分解速度を高める。定期的にご
が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~2週間。  3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。 4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。 4) 堆肥中に異物はないか。(ブラ等はふるい機で除去されているか)。 5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。 7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			
3) 分解しにくい有機物が残っているので、1~2か月熟成させる。これを二次発酵という。 4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。4) 堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。 5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。 7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			が終了したということを表す。ここまでを一次発酵といい、通常は1~
を二次発酵という。 4) 高速堆肥化は空気の供給と切り返しによって分解を早める方法だが、単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。 4) 堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。 5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。 7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			
単に積んでおき、定期的に切り返す野積み法がある。 5)生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6)戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1)施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2)分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。 3)生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。 4)堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。 5)製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 6)生分解性プラスチックの袋は分解しているか。 7)製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
5) 生ごみは水分が多いので、水分調整のためおがくずを入れる(水分調整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。 4) 堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。 5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。(積極的な利用者はいるか)。 7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			
整材という。) 6) 戻し堆肥を入れることで、微生物の活性を高める。水分調整の意味もある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。 4) 堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。 5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。 7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			
ある。 なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。 1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。 2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。 3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。 4) 堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。 5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。 7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			
<ul> <li>1) 施設内の臭気はどうか。(臭気対策)。</li> <li>2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。</li> <li>3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。</li> <li>4) 堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。</li> <li>5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。</li> <li>6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。</li> <li>7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。</li> <li>これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。</li> </ul>			
<ul> <li>2) 分別の程度はどうか。(異物検出機でどのようなものが除去されているか)。</li> <li>3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。</li> <li>4) 堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。</li> <li>5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。</li> <li>6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。</li> <li>7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。</li> <li>これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。</li> </ul>			なお、今回の視察ポイントは次のとおりである。
<ul> <li>3) 生ごみに対するおがくずの割合。製品堆肥と戻し堆肥の割合。</li> <li>4) 堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。</li> <li>5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。</li> <li>6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。</li> <li>7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。</li> <li>これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。</li> </ul>			
<ul> <li>4) 堆肥中に異物はないか。(プラ等はふるい機で除去されているか)。</li> <li>5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。</li> <li>6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。</li> <li>7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。</li> <li>これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。</li> </ul>			
5) 製品堆肥の保管時間はどうか。(時間の経過で熟成が進行)。 6) 生分解性プラスチックの袋は分解しているか。 7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用者の確保、この3つが重点となる。			
7) 製品堆肥はどのように利用されているか。(積極的な利用者はいるか)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用 者の確保、この3つが重点となる。			
か)。 これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用 者の確保、この3つが重点となる。			
者の確保、この3つが重点となる。			
			これらをまとめると、①臭気対策、②堆肥の質(異物と熟成度)、③利用
SA SHADAY OLD BUILDHOW CASE 18C 14 0		委員 2	
委員1 視察した施設はあまり大きい施設ではなく、臭気がかなりあった印象が			視察した施設はあまり大きい施設ではなく、臭気がかなりあった印象が

		ある。
	会 長	そこは屋内施設か。
	副会長	屋内施設で、生ごみのほか、野菜の残渣も処理しているようである。
	(監視委員会)	
	会 長	臭気は処理物による影響も大きい。生ごみ以外のものを混ぜることで状
		況は改善される。特に剪定枝が良く、全体の水分が下がり臭気も軽減され
		る効果がある。
		ただ、屋内施設で心配なのは冬。内外の温度差が大きいので、どうして
		も結露してしまう。
		生ごみは燃やすより堆肥化すべきという声も多いが、臭気対策や経費の
		問題、堆肥の販路確保など課題は多い。それらへの対応が視察のポイント
		である。
		では、次に進む。
検討事項4	会 長	その他ということで何かあるか。
(その他)	事務局	事務局からは特になし。
		(委員からも特になし。)
	会 議	本日の会議は以上で終了とする。
閉会	司 会	以上で令和7年度第2回旭川市中園廃棄物最終処分場監視委員会を終
		了する。
		なお、事件の申請人委員には、この後の会議でもオブザーバーとして参
		加願う。